



# 人権教育だより

京丹後市立大宮中学校

令和4年7月11日

No.5



1年生



いじめは“いじめる人”と“いじめられる人”だけの問題ではなく、はやしたてたりおもしろがったりする“観衆”や見て見ぬふりをしたり、おびえたりしている“傍観者”という集団の存在が問題であるという「いじめの構造」を学習しました。今回は1年生の学びの紹介です。（文章は一部編集しています）

教材「どうして？」を通して、いくら怖くて自分も被害にあうかもしれないと思っても、自分が混ざっていじめをしてしまったらその方が良くないと思う。「怖い、嫌だ」と感じるのであれば、それこそ被害者の気持ちもわかると思う。

いじめが起こっている時は「勇気」が大切だと思いました。いじめをしている人に注意をする勇気やいじめを受けている人に手を差し伸べる勇気が大切だと思いました。いじめはそういう勇気がないとなくならないと思いました。

いじめを受けている人も誰かに相談する勇気が必要だと思いました。僕は傍観者ではなく仲裁者になりたいです。そうやって人が傷つくのを防いでいきたいです。

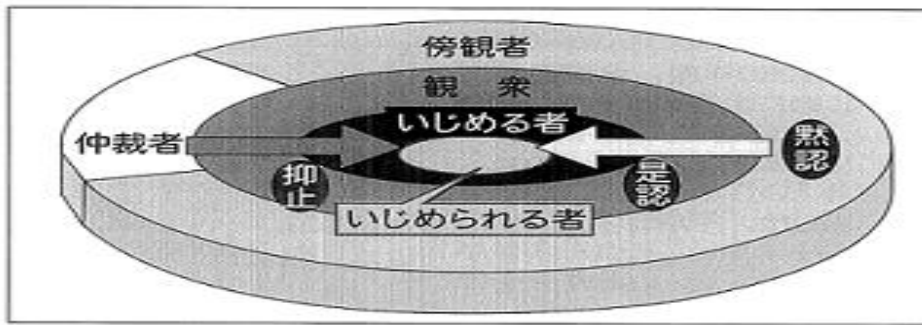
やっぱりいじめはだめだと思いました。一緒にいじめて楽しいと思っていても、それは間違いです。一緒に遊んだり、話したり、勉強したり、それぞれが「友達」なんじゃないかなと思いました。

これまでの学習を通して、「いじめ」を受けている人はすごく辛い思いをしていると改めて分かりました。

正直私はいじめとは関係ないと思っていたけれど、もしいじめにつながるようなことがあったら…と考えて行動し、人の気持ちを考えて過ごしていけるようにしたいと思いました。

いじめは四層あり、わたしは中でも「加害者」が一番悪いけど、「傍観者」の中には被害者の仲のいい人や友達もいるからその人たちも悪いと思いました。傍観者の人が一人でも多く抑止できる人になっていくことがいじめがなくなっていくことにつながると思いました。

いじめは自分には関係ないと思うのではなく、行動に移したり、自分の思い・考えを大切にしたりしていきたいです。



「いじめの構造」のイメージ図  
問題が起こった時、自分はどの位置にいるのか  
客観的に見られるようにしよう。

改めていじめはダメなことだと思いました。  
いじめはだれも幸せにならないし、受けた  
方もした方も最後はいやな気持ちになってしま  
うから、絶対にしてはいけないと思いました。

そしていじめを見つけたら、注意して止めた  
いです。いじている子にも「いじめはダメ」  
と思ってもらえるように説得したいです。

悩んでいる子がいたら相談に乗りたいし、自  
分自身も気をつけていきたいです。

いじめをしてはいけないのはもちろん、そ  
れに加担すること、その状況を見無視すること  
(傍観者)、いじめを肯定すること(観衆)も  
いけないということを学んだ。

いじめはみんなで止めないと終わらないから、怖  
がらずに行動することが大切だと思いました。いじ  
めをする人はなんでそのようなことをするのか僕に  
は理解できないけど、いじめ人は相手の気持ちを  
考えていじめをやめてほしいと思いました。

小学校でもいじめについて勉強していた  
けど、改めていじめはしてはいけないと思  
います。もちろんいじめをする人はダメだ  
し、それを黙って見ているのもいけないこ  
とだから、先生や親に相談したり、被害者  
の味方になりたいです。

いじめをするということは、されている  
人の気持ちを考えていないと思うので、相  
手の気持ちを考えて行動していきたいで  
す。いじめは命に関わることだから…。

改めていじめはあってはいけないものだと感  
じた。もしいじめがあったら、私は仲裁者の立  
場になれるようにしたいと思った。そのために  
親や先生にいじめのことを相談したり、ダメだ  
と思うことは「間違っている」と自分の意志を  
しっかり伝えたりできるようにしたいと考え  
た。どんな時でも、人の気持ちを考えて行動し  
たい。

何があってもいじめはよくないし、自分が  
されて嫌だなど思うことは相手も嫌だと思  
うから、そういうことを考えたい。

クラスの雰囲気がいじめになったりするか  
もしれないから、雰囲気よく仲良くしたい。